

上田市教育委員会 10月定例会会議録

1 日 時

平成24年10月18日(木) 午後2時30分から午後4時16分まで

2 場 所

上田市教育委員会(やぐら下庁舎) 2階会議室

3 出席者

委 員

委 員 長	西田 不折
委員長職務代理者	城下 敦子
委 員	小市 正輝
委 員	山崎 順子
教 育 長	小山 壽一

説 明 員

武井教育次長、小野塚教育総務課長、倉島学校教育課長、浅野生涯学習課長、小山人権同和教育政策幹、土屋文化振興課長、佐藤スポーツ推進課長、児玉丸子地域教育事務所長、藤沢真田地域教育事務所長、掛川武石地域教育事務所長、大塚第二学校給食センター所長、清水上田情報ライブラリー館長、神林中央公民館長、綿内川西公民館長、倉澤博物館長

1 あいさつ

2 協議事項

(1) 重点目標の中間報告について(教育総務課)

資料1により小野塚教育総務課長説明

城下委員

中間報告内容が既に記載されているが、本日の協議においても修正が可能か。

小野塚教育総務課長

特に大きな予算等が伴わなければ可能である。

城下委員

まず、上田市教育支援プランの推進において進捗度がパーセントで表記されているが、それを決める尺度あるいは判断基準というものはあるか。

倉島学校教育課長

当初の目標に沿って手を付け半年経っているので、順調に予定どおり進んでいるものについては50%としている。の(3)保育士の小学校への派遣については、当初から1学期のみの予定だったため100%としている。およそ期間中どれくらい進んだかを記載している。のキャリア教育の(3)については60%だが、9月までの年間半分の50%という部分に加え、パンフレットとのぼり旗についてはすでに全部でき上がっていることを考慮して60%とした。

城下委員

数値目標にどの水準までという記述があるが、判断しているのは回数などのパーセンテージであり、決めてある水準に対しての成果の達成度ではないということか。

倉島学校教育課長

例えば、の中学校教員を小学校に派遣する事業では、1年間を通じて4校に派遣するという目標に対して、9月まで予定どおり進んでおり残りの半年間については未達成なので、50%とした。(2)のアンケートについては、2回のアンケート予定のうち1回が終わったことから50%とした。

城下委員

それは行った数でのパーセンテージであり、成果がどこまで上がったかという評価ではない。市民に見てもらうためにつくったものであるが、書き方はこれでよいのか。去年もアンケートの結果を記載したほうよいなどの意見があったと思うが、全体的には今年も計画回数に対して実施回数があり進捗率50%などとなっている。

また、シートはぎっしり書いてあるが、罫線を引くと見やすくなる。市民が見やすいか、内容が分かるかというところを考えてつくると説明責任を果たせるのではないか。

小野塚教育総務課長

成果の報告内容は、現時点では目標を達成するための取組がどの程度進んでいるかといった中間報告である。最終となる期末報告では、このような取組をこれだけ実施し、こういう成果が出たという内容になる。また、教育委員会では、独自に教育行政評価懇話会でも事務の点検と評価を行っており、目標管理シートだけでは補えない部分をそちらで補っている面もある。

また、目標管理シートは教育委員会だけでなく庁内共通のシートのため、教育委員会のみでは変えられない。シートは前年に比べて取組を項目別に区切った点などが改善されているが、書き方や罫線については検討させていただきたい。

小山教育長

見やすくするという意味では、書き方が1コマ落しになっていない箇所があるなど、工夫した方がいい面がある。また、期末にならなくても成果が出ているものもあり、書けるものについては書いてもいい。

小市委員

例えば、不登校についてこの3年間を見ても、上田市は他市町村と比べてかなり成果が上がっている。取り組む事業の進捗状況は50%だとしても、中間報告の中に成果のニュアンスを書いてもいいのではないか。中間報告を見たときに、進捗はいいが成果はどうかかわからない。成果は必ず問われるものである。

キャリア教育については進捗状況60%とあるが、中学校単位でのキャリア教育部会の件は進んでいるのか。また、職場体験学習は10月が多いと思うがどんな状況か。

倉島学校教育課長

不登校の傾向についてはできるだけ書きたいが、このシートは24年度分であり、前年度までは減っていても今年半年間の傾向はこれまでと違う部分もありまだわからない。

キャリア教育については大半の中学校が力を入れており、2日が最高だった日数も3日行う学校も出てきた。また、支援についても、商工会などに校長先生が直接出向いてお願いをしており、今までより広く新しい企業が入ってきた。これまでは、1日だったら受け入れる企業が多く、2日、3日になると厳しいということになるので、やはり協力してもらえる企業が増えることがひとつの大きな課題である。キャリア教育は、まだまだこれからだと考えており、今後は学校ごとの情報公開などにも努めながら進めていきたい。

城下委員

今の発言を目標管理シートに書けないか。キャリア教育に関していうと、パンフレットやのぼり旗をつくって60%では駄目で、去年から日数が増えたこと、職場を提供してくれる企業が増えたことが、今年度の大きな変化である。そこを中間報告とすることが、事実在即しており報告にもなる。

倉島学校教育課長

できるだけのところは書き込みたい。庁内の横の連絡を取りながら対応したい。

西田委員長

キャリア教育の推進では、市内の事業所等への浸透度はどうか、商工会などにPRがもっとあってもいい。

山崎委員

シートを読んでも具体性が見えない。進捗率50%は何をして50%なのか分からなかった。例えば、学ぶ意欲を育む授業づくりでは昨年は中学校3校に専科教員がいたところ今年は4校になったが、前年度との比較が具体的にありと分かりやすく読みやすい。神科小学校と神科第一保育園との交流についても説明を聞かないとわからなかった。シートからそのことが分かると進捗状況50%も理解しやすい。他の箇所もそうだが、具体的なものがあると分かりやすい。

学ぶ意欲を育む授業づくりという点では英語の先生についての取組もあったと思うが、そのことは目標管理に取り上げていないため中間報告は必要ないが、状況はどうか。

倉島学校教育課長

中学校から小学校に教師を派遣している事業については、予算を伴って実施しているのが数学であり、予算を伴わずに中学校の自主的な取組として行っているのが英語である。

城下委員

小学校の耐震化の箇所では左端に学校名がたくさん書いてあるが、罫線を引くことで右端の中間報告を見たときに分かりやすくなる。他のページも同じである。中間報告でどれくらいできたか数字で表すのなら罫線を入れて、それに対するコメントを入れると分かりやすい表になる。段階を追っていろいろ改善していくことになると思うが、罫線を検討されたい。

小山教育長

地域が学校を支援する取組の中に、浦里小学校のコミュニティスクールが出ていないが、入れるべきであり、来年度は当初目標から入れて欲しい。また、川西公民館や真田公民館での通学合宿もこの取組に関係する。これ以外にも公民館が学校との繋ぎ役になっている例がいろいろある。

西田委員長

教育委員会にはPR不足の感があり、学校教育の取組なども市民に理解されなくて損をしている部分がある。行政全体もそうだが、事前のPRや中身を皆に理解してもらう努力も必要ではないか。せっかく予算をかけて市民のためにやることであり、浸透の度合いを見ることが大事である。生涯学習などの取組もためになることが非常に多い。どのようにPRするか、市民に理解してもらえるかは、成果と共に大切なことである。その次に何が生まれるかのもとになる部分であり、反省ばかりではなく良いところを見つけるという意味からも最終報告だけではなくて中間報告にも盛り込めればよい。

小市委員

学校施設の耐震化推進と教育環境の整備の項目に東塩田小学校が入っているが、屋内運動場の整備も耐震工事でやるということではどうか。学校訪問のときに窓ガラスの状況が非常によくなかった。建物そのものも非常に古いガラスが心配な状況であり、その点も全部やるのか。

小野塚教育総務課長

耐震化を行うのは校舎であり、屋内運動場については改築したいと考えている。予定では、

清明小学校の次に実施できるよう計画している段階である。

全委員 了承

(2) 各公民館運営審議会委員の委嘱について(中央公民館)

資料2により神林中央公民館長説明

城下委員

公民館の規模にかかわらず委員は5人以内とのことだが、検討した上で5人ということか。

神林中央公民館長

規模の大小にかかわらず5人以内である。人数については条例で定められており、人選については学識経験を有する者といった区分があり、地域の意見を反映できる体制である。

山崎委員

23年度の公民館活動記録によると、審議会の開催が1回のところと4回のところがあった。これは、審議の内容によって回数が違うという理解でよいか。

神林中央公民館長

それぞれの公民館長の諮問に応じて開催することとしており、公民館によって1回のところもあり、場合によっては4回のところもある。

西田委員長

具体的な審議内容は何か。

神林中央公民館長

それぞれの公民館で実施している講座や青少年育成及び人権教育等に対する取組などについて意見をもらい、方向を修正しながら公民館運営を進めるといった内容である。

西田委員長

報酬はどうか。

神林中央公民館長

半日当3,800円である。

全委員 了承

(3) 上田市指定文化財の新指定について(文化振興課)

資料3により土屋文化振興課長説明

山崎委員

指定された文化財は、この後どうなるのか。

土屋文化振興課長

所有者との話し合いになるが、所有者も高齢であり、できれば博物館に保管する形を取りたいと考えている。

全委員 了承

3 報告事項

(1) 4大学リレー講座「未来学科」2012の開催について(生涯学習課)

資料4により浅野生涯学習課長説明

西田委員長

講座の内容に関しては希望等を挙げているのか。

浅野生涯学習課長

こちらからは、時代に即しており、なおかつ市民に興味がありそうなことで、あまりに専門分野を掘り下げたむずかしいものは避けてもらうよう依頼している。

全委員 了承

(2) 補導情報(生涯学習課)

資料5により浅野生涯学習課長説明

城下委員

この情報はどのくらいの間隔で出されているのか。

浅野生涯学習課長

2か月に1度発行している。学校、全ての自治会、関係部局に配布している。

全委員 了承

(3) 第7回人権を考える市民のつどいの報告について(生涯学習課)

資料6により小山人権同和教育政策幹説明

全委員 了承

(4) ふれあい人権の集い2012及び平成24年度人権セミナーの開催について (丸子地域教育事務所)

資料7により児玉丸子地域教育事務所所長説明

全委員 了承

(5) 第26回上田古戦場ハーフマラソン結果について(スポーツ推進課)

資料8により佐藤スポーツ推進課長説明

西田委員長

県外の参加者が増えているが、PRはしているのか。

佐藤スポーツ推進課長

事務局としては、市のホームページ等に掲載のほか、前回の参加者にダイレクトメールで大会参加要領を送っている。また、ランネットとスポーツエントリーという2つの方法でインターネットによる参加申し込みをできるようにしている。特にランネットを利用して全国の大会に参加するランナーが多く、そこから本大会を検索して参加する人が増えてきていると考えている。

山崎委員

怪我などへの対応や準備はどのようにしているか。

佐藤スポーツ推進課長

走っている途中で走れなくなったり怪我をしたりした場合、すぐに救護車に乗せられるような態勢をとっている。今年の大会では、特に救護車で運ばれるような怪我人はなかったと聞いている。

城下委員

ネットでの応募が多いとのことだが、ネットではハーフマラソンの感想も載っている。来年度の競技運営の参考とされるとよい。

西田委員長

参加者が集まり過ぎて困るということはないか。

佐藤スポーツ推進課長

今年の参加者は2465名だった。駐車場は南部処理場の駐車場も借りたが、8割ぐらいの利用だった。県内外遠くから車での参加が増え、3000人を越えると、また別の駐車場を考えなければならない。今年は駅前からのシャトルバスも昨年より2台増やしたが、大変好評で大勢の人が上田駅から会場まで利用した。そういった工夫をしながら対応していきたい。

城下委員

走り終わった後に林檎や豚汁が配られたが、それはボランティアか。

佐藤スポーツ推進課長

開会式とゴールで行った太鼓については、お願いして謝礼を支払っている。豚汁のサービスについては、材料費を実行委員会で負担し、その他は安曽望会（あそぼうかい）がやっている。安曽望会の人件費、機材使用料などは、安曽望会が負担している。配布した林檎については、JAの協賛により提供してもらい、それをカットして参加者に提供した。

全委員 了承

（6）スポーツ関係市長表敬訪問者報告（スポーツ推進課）

資料 9 により佐藤スポーツ推進課長説明

全委員 了承

(7) 行事共催等申請状況について(学校教育課・生涯学習課・文化振興課・スポーツ推進課)
資料 1 0 - により倉島学校教育課長説明

全委員 了承

資料 1 0 - により浅野生涯学習課長説明

全委員 了承

資料 1 0 - により土屋文化振興課長説明

全委員 了承

資料 1 0 - により佐藤スポーツ推進課長説明

全委員 了承

4 その他

倉澤博物館長より「松平氏時代の名品」「信濃美術館移動展」の説明

神林中央公民館長より公民館だよりの説明

全委員 了承

閉会